

# 杉原紙シンポジウム

2018

11/17 (土)

11:00~16:00

会場：多可町文化会館  
ベルディーホール  
兵庫県多可郡多可町中区中村町135

開場 11:00

入場無料  
要予約

会議室

大ホール

杉原紙商品開発コンテスト作品展  
寿岳文章の集めた和紙展

開会・挨拶/杉原紙アイデア商品コンテスト表彰式 (13:00~13:45)

基調報告 (杉原紙総合調査成果から) (13:50~14:30)

## I. 『日本の和紙文化における杉原紙』

湯山 賢一 (神奈川県立金沢文庫長)

## II. 『地元史料にみる杉原紙の歴史 ~中世から近現代~』

小栗栖 健治 (播磨学研究所副所長)

パネルディスカッション (14:40~16:00)

パネリスト 湯山 賢一 (神奈川県立金沢文庫長)

富田 正弘 (富山大学名誉教授)

小栗栖 健治 (播磨学研究所副所長)

植岡 真弓 (播磨学研究所研究員)

コーディネーター 安平 勝利 (那珂ふれあい館 館長)

【予約申込・問合せ先】那珂ふれあい館 多可町中区東山539-3

Tel 0795-32-0685 Fax 0795-30-2730

休館日：毎週月・火曜日 (ただし、第3日曜の週は第3日曜日と翌月曜日)・祝日



# 杉原紙

杉原紙は、兵庫県多可郡多可町加美区の杉原谷地区で生み出された手漉き和紙です。

その発祥は、飛鳥・奈良時代とも伝えられますが、歴史的文献上では、平安時代終り頃の関白藤原忠実の日記『殿暦』の永久四年（1116年）の条にみられる、息子や娘に家宝の調度品とともに、『梶原庄紙』を百帖つつ添えて贈与した記事が初出となります。

杉原谷地区は、藤原忠実の祖父の頃から、『梶原庄』として摂関家の荘園となっており、この地で漉かれた紙が『梶原庄紙』と呼ばれていたことがわかります。

その後、武家社会（鎌倉～室町時代）になると、幕府の公文書料紙、武家の書状や大寺院の文書料紙、あるいは贈答品として、爆発的に普及し、幅広い層に使用されるようになります。そうした需要の高まりとともに、発祥地である杉原谷だけではなく、『〇〇(産地名)杉原』と言われるように、全国各地で杉原紙が漉かれるようになり、『杉原紙』は紙を代表する商品名の一つに成長し、江戸時代には、多様な用途に分化しながら、一般庶民の生活の中でも広くつかわれるようになっていきます。

以上のように、杉原紙は、中世期から近世期にかけての日本の紙文化の発展に大きな影響を与えてきた紙の一つであるといえます。



平安時代に杉原谷で生みだされて以来、少なくとも900年以上、先人たちによって継承され、日本の紙文化に大きな影響を与えてきた『杉原紙』が、今も多可町で漉き続けられていることは『奇跡の技術・文化』であり、この杉原紙を「知って」、「触れて」、「使って」、「活かして」、発展させながら後世へ繋いでいく一つの契機として、シンポジウムを開催いたします。

## ☆同時開催 (会議室にて)

### 寿岳文章の集めた和紙展

寿岳文章氏は、昭和12年～15年にかけて、全国の手漉き和紙の産地を訪ね歩き、その実態を記録するとともに、各産地の手漉き和紙見本を収集されました。これらの貴重な資料は、現在、多可町和紙博物館『寿岳文庫』に寄贈、保管されていますが、今回シンポジウムに合わせて、これらの資料の一部を展示します。

### 杉原紙アイデア商品コンテスト作品展

杉原紙NEXTプロジェクト主催によるコンテストの入賞作品を展示します。

シンポジウム参加 申し込み先／お問い合わせ先

那珂ふれあい館 多可町中区東山 539-3  
Tel 0795-32-0685 Fax 0795-30-2730  
休館日：毎週 月・火曜日（ただし、第3日曜の週は第3日曜日と翌月曜日）・祝日

申し込み締切；平成30年11月11日

## 参加申込書

| 名 前 | 郵便番号 | 住 所 | ご連絡先 |
|-----|------|-----|------|
|     |      |     |      |
|     |      |     |      |